

広報7月号特集「防災」に関する質問の回答について

○7月号の特集を見て疑問に思ったこと、 その他「防災」について 日頃から疑問に感じていること、知りたいことなどを教えてください

番号	質問	回答
1	防災訓練に参加された方からの話。暫く待たされ参加してたのはお年寄りばかり。なんの為の防災訓練だったんだろうと言われてました。	防災訓練に関してご意見をいただき、ありがとうございます。訓練の目的は、町民の皆さまの防災意識の向上と、町役場や消防団など関係機関の初動対処能力を高めることにあります。今回の訓練では、500名近くの町民の皆さんに参加いただきました。 特に高齢者の皆さまが多く参加されたことについては、防災意識の高さを示すものとして、非常に重要な意味を持っていると考えております。高齢者など災害時に支援が必要な方々にとって、防災訓練への参加などの経験は災害時の適切な避難行動につながるものと期待されます。 防災訓練の際に一部の方が長時間待たされたことについては、今後の訓練の改善点として真摯に受け止め、より効果的な訓練ができるよう取り組んでまいります。防災訓練は全ての世代の皆さまが参加しやすい環境を整えることが重要ですので、今後も皆さまのご意見を参考にしながら、より良い訓練を実施してまいります。 引き続き、防災訓練へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
2	ダンボールベッドは見本程度の数しかなかったが、独居の場合など家に帰れないお年寄りの人数程度は揃えてあるのか気になる。災害時にはプライバシーのためにパーテーションのようなものをテレビで見たことがあるが、そのような備えはあるのか？なければ各家庭が持っているポップアップテントを活用してはどうか。地域のボランティアをしているような方々と炊き出しの練習をする機会もあれば良いなと思った。	ご質問ありがとうございます。段ボールベッドやパーテーションについてのご指摘は重要なポイントです。現在、町の備蓄には限りがあり、大規模災害が発生し災害の長期化が想定される場合には、支援物資の補填を国や県、協定を締結している企業に要請する計画になっています。これにより、必要な物資を迅速に確保する体制を整えています。 災害時には自助・共助・公助の3つの連携が重要であり、これが円滑であれば災害の被害を軽減することができます。ポップアップテントなどをお持ちの方は、自分で必要と感じた場合に持参していただけると助かります。これにより、プライバシーの確保や避難生活の快適性向上に繋がると考えています。 炊き出しに関しても非常に重要なお意見をいただきました。地域のボランティアの方々や炊き出しなどの練習をすることは、災害時の地域防災力（対応力）を高めるために有益だと認識しています。現時点では具体的な実施計画はありませんが、今後の検討課題とさせていただきます。 皆さまのご意見を参考にしながら、より良い防災体制を整えてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

3	自宅は山の中腹の為、垂直避難でも心配な時があります。避難場所が高台ではなく運送会社の駐車場になっています。公民館は川沿いで収容人数が少ない場合はどうすればよいですか？地域の集会所もありません。	ご質問ありがとうございます。まず、ご自宅などの垂直避難では危ないと感じる場合は、立ち退き避難することが基本です。立ち退き避難する際の避難場所など避難計画を家族と共有し、早めの避難を心がけることが大切です。現在の避難場所は地理的条件や利用可能なスペースを考慮して設定されています。町では、皆さまの安全を最優先に考えて災害の種類や規模に応じて適切な避難所や避難場所を指示します。 また、大規模災害が発生し、避難所の収容人数を超えた避難者が発生した場合は、避難者の分散避難や、近隣の安全な場所へ避難を誘導することで、過密を避けることを想定しています。町からの避難情報に従ってください。
4	大人が子どもを守るべき者だが、災害がいつ起きるか分からない為、学校、町側が学校にて教えて欲しい。今のままでは大人は理解しても、内容に寄っては子どもだけでは理解が難しいのでは？「子ども達だけでも理解出来るMAP」が必要なのかも？しれませんね	ご質問ありがとうございます。大人が子どもを守るべきとのご意見は、その通りだと考えております。しかし、災害はいつ発生するかわからないため、子どもたち自身も防災知識を持つことが非常に重要です。そのため、町は昨年度から、学校での防災教育を支援しています。 具体的には、山田小学校で防災教育を実施し、子どもたちが自ら考え行動する力を養う取り組みを行っています。また、オリジナルのハザードマップを作成し、子どもたちが自分たちの町や学校周辺の危険箇所を理解しやすいように工夫しています。このような取り組みは、子どもたちが災害時に冷静に行動できるようになるための重要なステップです。 ご指摘の通り、ハザードマップは子どもだけでは理解が難しい部分もあります。そのため、子どもたちにとって理解しやすい防災情報の提供や、「子ども達だけでも理解できるMAP」の作成が必要だと考えています。山田小学校の事例をもとに、今後ものは他の学校でも同様の取り組みを進めていく予定です。 災害対策は「自助」「共助」「公助」の3つの連携が不可欠です。行政や学校が、子どもたちが自ら命を守るための防災知識を身につけさせることはもちろん、家庭や地域の大人たちとも子どもたちと一緒に防災について話しをし、子どもたちの防災意識を高めていくことが、子どもたちの安全を守るための基本です。 引き続き、皆さまのご意見を参考にしながら、防災教育の充実と子どもたちにとってわかりやすい防災情報の提供に努めてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

5	子どもが私たちと離れている時、学校の登下校中などに災害にあったら、私たち親や親族は自宅から遠い場所で働いているのですぐかけつけられません。どういうところに気をつけたらいいですか。	ご質問ありがとうございます。お子さんが学校の登下校中など、親や親族がすぐに駆けつけられない状況で災害に遭った場合のご心配はよく理解できます。以下の点に注意していただくことで、お子さんの安全を確保するための対策が取れると思います。 1. 避難経路と避難場所の確認: お子さんと一緒に学校や自宅周辺の避難経路と避難場所を確認し、実際に歩いてみることをお勧めします。避難場所へのルートを複数確認し、緊急時に迷わず避難できるようにします。 2. 緊急連絡先の共有: お子さんに連絡先カードなどを持たせ、緊急時に連絡を取れるようにしておくことが重要です。学校や地域の緊急連絡先も含めて、家族で共有しておくことが重要です。 3. 地域のコミュニティとの連携: ご近所や地域の方々と日頃から交流を持ち、災害時に助け合える関係を築いておくことが大切です。地域の防災訓練にも積極的に参加し、情報共有を行いましょう。 4. 非常用持ち出し袋の準備: お子さん用の非常用持ち出し袋を用意し、必要な物品を入れておくことが重要です。 最後に、災害は「自助」「共助」「公助」の連携が重要です。お子さん自身が自助の力を持つこと、地域での共助のネットワークを築くこと、そして公助として学校や町が連携して対応することが、総合的な防災対策となります。引き続き、皆さまの安全を守るための取り組みを進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
6	防災訓練の今後の展開をどうして行くのかな？	ご質問ありがとうございます。防災訓練の今後の展開について、町としては以下のような取り組みを計画しております。 1. 定期的な防災訓練の実施: これまで通り、定期的に防災訓練を実施し、町民の皆さまの防災意識の向上と、関係機関の初動対応能力の強化を図っていきます。訓練内容やシナリオのバリエーションを豊かにし、実際の災害時に即応できるようにします。 2. 各行政区自主防災組織との協力: 各行政区自主防災組織との協力を強化し、住民同士の共助の体制を構築します。災害時にはお互いに助け合える関係を築くことが重要です。 3. 学校との連携強化: 子どもたちの防災教育をさらに強化します。学校と連携したオリジナルのハザードマップづくりを他の学校でも展開し、子どもたちが自分たちの地域の危険箇所を理解できるようにします。 住民の意見を反映: 町民の皆さまからのフィードバックを真摯に受け止め、訓練内容の改善に努めます。 引き続き、皆さまの安全を守るため、防災訓練の充実と実効性の向上を目指してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

7	猪野の川沿いの家ですが、川向かいの家の土手から大木が出ています。年々大きくなり枝が川を挟んでうちの方まで伸びて垂れ下がっています。いつか倒木して川を塞いで大水を引き起こすのではないかと雨が降るたび心配です。枝を切る等の対策をしてもらうことはできませんか？	ご意見をいただき、ありがとうございます。 個別具体的な案件については、詳細を確認させていただがないと対応することができません。お手数をおかけしますが、河川を管轄している都市整備課に一度ご相談をお願いします。 都市整備課の連絡先は以下の通りですので、お手数ですがご連絡の上、詳細をお伝えください。 【都市整備課連絡先】 電話番号：092-976-1111 メールアドレス：toshiseibi@town.hisayama.fukuoka.jp 何卒よろしくお願いいたします。
---	--	---

